

令和5年度 学生議会 取組状況一覧表

令和6年12月1日時点

<予算措置の分類>

○：予算措置あり、－：予算措置なし

<事業の実施状況の分類>

A：意見・質問等の趣旨に沿って実施したもの（一部実施を含む）、B：実現に向け努力しているもの、C：当面は実現できないが検討課題として受けたもの、D：実現が極めて困難なもの・提言として受けたもの・現状の説明をしたもの

整理番号	テーマ	質問N.○	質問内容	市の回答	担当課	予算措置	事業の実施状況	備考
1	わたしたちの「にしがま線」について	1	赤字対策として、「にしがま線」を利用する人の年代別の割合や、時間帯ごとの利用者数を調べ、その結果により、利用者が少ない時間帯の車両数を減らしたり、運行をとりやめたりしてはどうですか。	ご指摘のとおり、「にしがま線」を利用する人の年代別の割合や、時間帯ごとの利用者数を調べ、路線の実態を明らかにすることは、「にしがま線」の持続可能な運行を検討する上で大変重要な取組であると認識しております。 なお、コストの削減につながる効率的な運行を行うことは、これまでに名古屋鉄道において実施しております。現状以上に車両数を減らしたり、運行を取りやめたりすることは、赤字対策としての選択肢の1つではある一方で、路線としてのサービス・利便性の低下につながり、サービス・利便性の低下は、一層の利用者減少を引き起こし、更なる収支の悪化を招く恐れがあるとのことから、有効とは考えていません。 市といたしましては、路線の存続のためにまちづくりと一体となった取り組みを進め、地域の皆様の日常的な鉄道利用につながるような施策や観光客などの恒常的な鉄道利用につながるような施策を検討し、取り組んでまいりたいと考えております。 市民ひとり一人が、三浦議員と同じように「にしがま線」の存続問題について関心を持つことが重要です。今後も市として実態調査や分析を行っていききたいと思います。	地域つながり課	○	B	
		2	幡豆中学校では、毎年「にしがま線夢シーサイドウォーク」という、「にしがま線」を使って移動し、海岸線を歩く行事を行っています。廃線の危機であるという意識を広く共有するため、市内の中学生を対象にイベントを行ってはどうか。	幡豆中学校では、毎年、名鉄存続のための学校行事を実施し、生徒の皆さんが、主体的に「にしがま線」存続に向けてPR活動に取り組んでいただいておりますこと、大変ありがとうございます。 市といたしましても、鉄道の有無は、子どもたちの進路選択に大きく影響を及ぼすものであり、「にしがま線」は、存続していかなければならないと考えております。本市では、蒲郡市や西尾市などで組織する名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会において、「にしがまシーサイドウォーク」というウォーキングイベントを毎年実施しております。このイベントは、年齢に関係なくご参加いただけるため、中学生同士の参加も可能となっております。 市内中学生のみを対象にしたイベントを市が主催することは今のところ考えていませんが、進路によってはどの中学校の生徒の皆さんも「にしがま線」を利用する可能性がありますので、市内の中学生と交流を兼ねた行事を中学生自らの手で作り上げていくことも考えてもらえるとうれしく思います。	地域つながり課	○	A	
		3	「にしがま線」沿線に魅力的な施設を誘致するとともに、スタンプラリーなどのイベントを実施して、「にしがま線」を利用した人への特典を設けてはどうか。	「にしがま線」沿線に新たな誘客施設を誘致することは、地域の活性化にも、「にしがま線」の利用促進にもつながり、観光客を呼び込む一つの手段になると考えます。しかしながら、事業者にとっても利用者の見込みから、経営が成り立つか、採算が摂れる施設や立地でなければなりません。新たな施設を誘致するののも一つの考えではありますが、実現が難しい現状では、こどもの国など今ある施設や資源を最大限に生かして取り組んでいきます。 スタンプラリーなどのイベントについては、蒲郡市・名古屋鉄道と協力して、名鉄電車フリーきっぷを利用したイベントを数年前から実施しています。沿線の店舗とタイアップしているほか、ラリーをクリアした方には地元特産品をプレゼントするなどの特典も用意してきました。 また、昨年度、新たな取り組みとして、「駅メモ」という位置情報連動型ゲームとコラボして、「にしがま線」の各駅と沿線の観光スポットを巡るデジタルスタンプラリーを実施し、全国から集客を得ることができました。 今後も、「にしがま線」の利用促進に取り組んでいきたいと考えています。	地域つながり課	○	A	

<予算措置の分類>

○：予算措置あり、―：予算措置なし

<事業の実施状況の分類>

A：意見・質問等の趣旨に沿って実施したもの（一部実施を含む）、B：実現に向け努力しているもの、C：当面は実現できないが検討課題として受けたもの、D：実現が極めて困難なもの・提言として受けたもの・現状の説明をしたもの

整理 番号	テーマ	質問 N.º	質問内容	市の回答	担当課	予算 措置	事業の 実施状況	備考
2	全ての地域に安全を	1	今までに市内小中学生が交通事故にあった場所をまとめ、市民に情報発信したことはありますか。	交通事故に関する情報発信について、市は事故箇所の発信はしていませんが、愛知県西尾警察署が平成30年から令和4年までの5年間で発生した事故のうち、「歩行者」あるいは「自転車」が絡む事故が複数発生した場所を取りまとめ、小学校区ごとに交通安全マップを作成しホームページに掲載しております。 市といたしましても、交通安全マップが多くの方の目にふれるようにすることは重要と考えますので、まず、西尾市のホームページからも確認できるようにリンクを貼るようにし、併せて、小中学校等に提供してまいります。 次に、小中学校等で実施している交通安全教室において、交通安全マップを用い児童生徒に事故が発生しやすい危険な交差点などをお知らせし、特に気を付けて通行していただくよう注意喚起をしていきます。 また、危機管理課や各支所の窓口での配布、学校から家庭へ交通安全マップの情報を提供し、保護者を含め多くの市民に周知できるよう考えてまいります。	危機管理課	―	D	
		2	小中学生と車との接触事故を減らすため、市内小中学校の交通事故情報を基にカーブミラーを設置するなどの交通安全対策を実施しませんか。	市では通学路の交通安全対策として、西尾市通学路交通安全プログラムを平成27年度に策定し、以降、毎年、教育委員会、警察、道路管理者により、通学路の合同点検を行い、対策が必要と判断された箇所については安全対策を図るなど、交通事故を未然に防止する取り組みを行っています。 また、重大事故や繰り返し事故が発生した場所などについては、現場状況を確認し警察と調整のうえ、必要な安全対策を早急に講じるよう努めています。 カーブミラーについては、建物や壁などを原因とした見通しの悪い交差点やカーブ箇所などの、目視確認が困難な場合に設置しています。小林議員は、カーブミラーのない見通しの悪い場所で危険な思いをしたとのことですが、そういった場所についても設置を考える対象になると思います。しかし、狭い道から歩道のある広い道に出ようとするときに、カーブミラーを設置したことにより、目視確認や一時停止をせずに自動車が進んで進入し、広い道の歩道を通っている歩行者等を巻き込む重大事故の発生も考えられることから、設置については現場状況を確認のうえ、慎重に判断をしています。 今後においても、交通事故情報や通学路交通安全プログラムなどにより対策が必要と判断される箇所については、カーブミラーの設置など効果的な安全対策を引き続き実施してまいります。	土木課	―	D	

<予算措置の分類>

○：予算措置あり、－：予算措置なし

<事業の実施状況の分類>

A：意見・質問等の趣旨に沿って実施したもの（一部実施を含む）、B：実現に向け努力しているもの、C：当面は実現できないが検討課題として受けたもの、D：実現が極めて困難なもの・提言として受けたもの・現状の説明をしたもの

整理番号	テーマ	質問No.	質問内容	市の回答	担当課	予算措置	事業の実施状況	備考
3	我が一色町を誇れる町に	1	地域の魅力を広げていくため、学生と協力して、町の良さをアピールする企画を3つ提案します。 ①一色地区の大提灯祭りの案内・説明ボランティアの募集 ②旧幡豆郡校区の学生の茶摘み体験の機会を設ける ③各中学校区の学生のプレゼンによる地域の魅力発信です。これらの提案について、どのようにお考えでしょうか。	一色地区の大提灯祭りの案内・説明ボランティアの募集について、お答えいたします。 「三河一色大提灯まつり」につきましては、昨年度解散した「一色町歴史ガイドの会」の思いを引き継ぎ、今年度から大提灯まつりのガイドを行う「三河一色大提灯ガイドの会」が発足しました。 「三河一色大提灯ガイドの会」では、次世代への継承を目的として、一色中部小学校と一色南部小学校を訪問して、大提灯まつりの歴史についての講話を行うとともに、全ての方を対象にガイドを募集し、その育成に努めておられます。 この活動に、多くの方、特に若い方々に参加いただくことが、地域の魅力を広げていくことにつながると考えます。 「ガイドの会」には、一色中学校にボランティア募集を働きかけていただくよう話をするともに、大岡議員も是非、この「ガイドの会」にご参加いただければと思います。 西尾市で行われている「学校茶摘み」は小・中学生を対象にした、全国的にも珍しい伝統行事で、今年で85年目を迎えました。勤労体験学習として、児童生徒らに勤労の尊さを伝え、西尾の地場産業を理解してもらう目的で毎年行われています。 地域の産業を理解するうえで、体験的活動は有意義であり、大岡議員のように、茶畑のない地区の児童生徒でも「学校茶摘み」を経験することによって、西尾市の産業を理解したいという思いは大変嬉しく思います。 茶摘み体験を行っていない旧幡豆郡校区の小中学校においても、えびせんべいの手焼き体験や吉良温泉の宿泊施設での勤労体験、トンボロ干潟の清掃など特色ある体験学習が行われています。今後も各学校において、地域の良さを生かした、よりよい体験学習が工夫されるようにしていきたいと思います。 なお、茶摘み体験については、西尾市観光協会が一番茶茶摘み体験を開催していますので、そちらを体験していただいたり、市が小中学校向けの食育講座を実施しており、その中に西尾の抹茶について学ぶ内容がありますので、そちらで西尾の抹茶について理解を深めていただけると幸いです。 「③各中学校区の学生のプレゼンによる地域の魅力発信」のご提案については、若い世代の方々が、自分たちが暮らす地域に興味・関心を持つきっかけになるとともに、地域の魅力の再発見につながると考えます。 市として新たにプレゼンテーションの機会を設ける予定はありませんが、本日の学生議会を始めとする市の取組みに積極的に参加していただき、まちづくりに対する意見や提案、また、地域の魅力を伝えていただくことは、大変意義があることだと思います。 現在、市では、InstagramやFacebookなどSNSを活用し、市民と一緒に西尾の魅力を伝える取組みを行っています。取組みを通じて、西尾の魅力を自ら発信していただける市民を増やし、市外に向けては、本市の知名度向上や西尾ファンの獲得を、市内に向けては、西尾の魅力を再発見し、地域に対する愛着を深めてもらうことを目指しているところです。 ぜひ、皆さんのような若い方々の力を貸していただき、若者らしい目線で今までには無い西尾の魅力を広めて欲しいと思います。	観光文化振興課 学校教育課 広報広聴課	○	A	
		2	一色町を通っていた名鉄三河線は平成16年に廃止されましたが、名鉄三河線を再開通したり、名鉄東部交通バスやいっちゃんバスの本数や巡回ルートを増やしたりする計画はありますか。	今後、高齢化がさらに進むことで自動車の運転免許を返納する高齢者が増えていくことや、通勤・通学の足を確保する意味でも、公共交通事業は豊かな生活を送っていただくために大変重要な役割を担っていると考えています。その一方で、事業を継続していくためには一定の経費が掛かるのも事実であり、どれだけのお金を使ってもよいというものでもありません。サービスの充実と経費の抑制をどう両立させながら、持続的な公共交通事業にしていけるのか大きな課題であるといえます。 ご質問のあった名鉄三河線については、利用者が少なく、採算性がないため廃線になっていることや、線路のあった土地は民間による宅地開発などが行われているため、再開は現実的に難しいと考えます。 また、名鉄東部交通バスについては、一色地区から市中心部への移動手段として、通勤や通学のほか佐久島への観光目的に、年間約13万人の方に利用されていますが、運行事業者に確認したところ、運転士が慢性的に不足していることや、現在の利用者数を考えると、運行本数やルートを増やす計画はないとの回答をいただいています。 市のコミュニティバスとして運行している「いっちゃんバス」については、令和4年度の利用者数は3,474人で、利用者一人当たり6,133円の経費が掛かっており、残念ながら住民の足として機能しているとはいえない状況です。現在、地域住民の皆さまと共に、一色地区における移動手段について改めて検討を進めています。 公共交通のあり方については、あったらいいだけではなく、運行継続可能な形としてどのような公共交通が必要なのか、大岡議員も一緒に考えてもらえるかと嬉しく思います。	地域つながり課	－	C	

<予算措置の分類>

○：予算措置あり、―：予算措置なし

<事業の実施状況の分類>

A：意見・質問等の趣旨に沿って実施したもの（一部実施を含む）、B：実現に向け努力しているもの、C：当面は実現できないが検討課題として受けたもの、D：実現が極めて困難なものの・提言として受けたもの・現状の説明をしたもの

整理 番号	テーマ	質問 N.º	質問内容	市の回答	担当課	予算 措置	事業の 実施状況	備考
4	若い世代の居場所づくり	1	若い世代が自分の存在意義を認められ、街の活性化に参加できるように、現役の高校生や大学生が講師となり、主体的に運営する「動画編集講座」や「盛れる映える写真講座」などを開設しませんか。	現役の高校生や大学生が講師となる講座については、現在までのところ、主体的ではありませんが、「けん玉入門講座」の講師を大学生を含むクラブが務めたり、小学校高学年の児童がふるさと西尾の自然や文化を学ぶ「にしおワクワク体験塾」の企画や進行を大学生や高校生が担ったりすることは行っています。 教育委員会としては、高校生や大学生でも、特定の技術や知識について他の人に教えることのできる能力を持っている方であれば、講座の講師登録をしていただき、その講座を開講していくことは可能だと考えております。そして、高校生や大学生が、ふれあいセンターなどの生涯学習施設の貸室を借りて自主講座や勉強会などを開催することも可能です。 また、動画編集や写真撮影の講座ではありませんが、教育委員会が将来的に開講を計画しています。eスポーツ体験講座については、その準備段階から、eスポーツに興味のある高校生や大学生に主体的に関わっていただき、講師はもちろん若い世代にとって受講したいと思わせる講座をともに企画したり、その講座を起点にまちの活性化につなげるアイデアを検討したりすることを計画していきたいと思います。	生涯学習課	○	A	
		2	市内の中学生を対象に、音楽に限定せず、中学生が主体となり、企画・運営する「中学祭」を、市が主催しませんか。	学校は、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養うことを目標に、全校または学年の生徒で協力し、よりよい学校生活を築くために、年間を通じて、様々な学校行事に取り組んでいます。 現在、中学校では、体育大会や文化祭、定期テストに加え、地域の実情に合わせた特色ある行事が行われており、各校の年間計画は、準備を含めて空いている期間がほとんどありません。市内統一で大きな行事を行うには、調整が難しいと思われます。 今回、学校の枠を超えた「中学祭」という行事にチャレンジしたいという壮大な企画を考えてくださったことを頼もしく思います。 市内全中学校が一体となって、中学生全体で主体的に推進していくためには、中学校間の緊密な連携が不可欠となります。そこで、まずは生徒会等が中心となって他の中学校へ呼びかけ、「中学祭」の機運を高めていくことから始めることが現実的ではないでしょうか。鶴城中学校が起点となって、市内全中学校を巻き込むような活動が始まっていくことを期待いたします。	学校教育課	―	D	
		3	誰もが気軽に立ち寄れ、安心して過ごせる居場所づくりを進めませんか。	浅井議員の言われる、学校でもなく家庭でもなく、安心してありのままの自分でいられる子どもや若者の居場所づくりというのは、全国的に求められている課題の一つでもあります。西尾市においては、これまで多様な居場所づくりに力を注いでまいりました。 ちなみに居場所というのは、建物の中で安心して利用できるハード的な居場所もあれば、人と人が気軽にコミュニケーションがとれる交流や相談の場としてのソフト的な居場所もあります。 はじめにハード的な居場所として、ふれあいセンター、公民館や図書館などに開館時間中はいつでも誰でも使える学習スペースや学習室を用意しています。また、今年6月にはマンガの名作をそろえたりサイクル本のマンガ文庫を米津ふれあいセンターなどに設置し、誰でも気軽に立ち寄り、好きなだけマンガを読むことのできる空間をつくりました。そして、西尾駅にベンチやピアノなどを置いて「おいでっき」として自由な発想で多目的に利用していただいています。さらに、西尾幼稚園の西側、蒸気機関車のある西尾公園とテニスコートがある場所に、全世代の市民が集う多様な学び・交流の場として、9年度の完成を目指して多目的な複合施設の建設を進めています。ここには、幅広い年代の来訪者がゆったりとくつろいだり、ワクワクする遊びを子どもが体験できたりする、自由で開放的な居場所空間を設けることを計画しています。 次に、ソフト的な居場所として、子ども・若者総合相談センター「コンパス」を中央ふれあいセンターに開設し、どんな小さな悩みでも電話やLINEなどで気軽に相談を受けています。また、コンパスでは、孤立化している子どもや若者のための交流の場として、軽運動やオンラインゲームやカラオケなどの行事を定期的開催しています。 「居場所づくり」は、子どもや若者のみならず、すべての年代の市民の皆さんにとっても必要なものです。今後も市民の皆さんにとって居心地のいい西尾市にしていきたいと思います。	生涯学習課 地域つながり課 秘書政策課	○	A	

<予算措置の分類>

○：予算措置あり、―：予算措置なし

<事業の実施状況の分類>

A：意見・質問等の趣旨に沿って実施したもの（一部実施を含む）、B：実現に向け努力しているもの、C：当面は実現できないが検討課題として受けたもの、D：実現が極めて困難なもの・提言として受けたもの・現状の説明をしたもの

整理番号	テーマ	質問No.	質問内容	市の回答	担当課	予算措置	事業の実施状況	備考
5	西尾市の観光について	1	今後、各種体験ツアーの回数を増やしたり、学生料金を設定するなど、若い世代が参加しやすい工夫をしませんか。	各種体験ツアーについて、旅行業登録があり、各種ツアーも企画する西尾市観光協会に確認したところ、食事や体験付きの少人数募集のツアーは、一定の経費がかかるため、需要が見込めないと回数は増やせないとのことでした。 また、学生料金の設定については、赤字にならないようにするために、割り引き分を大人料金に上乗せする必要がある、大人料金の商品が魅力のないものになってしまうことから、それも難しいとの回答でした。 一方で、佐久島クルーズツアーのように、多くの人数を募集するツアーの場合も需要の見込みが回数増加の判断材料となってきましたが、席に空きのある便などに学生料金を設定することは、より効果的な運用ができる可能性もあるとのこと、今後、佐久島クルーズツアーの最終便への学生料金の設定を検討していきたいとのことでした。 全国的に見ても若い世代の方は、SNSなどで知り得た情報をもとに個人旅行を楽しまれる傾向にありますが、今後も西尾市観光協会と連携し、若い人にも西尾を選んでもらえるようなツアーを企画するとともに、西尾の魅力が存分に伝わる効果的なPRに努めてまいります。	観光文化振興課	―	C	
		2	お店や史跡を巡るとクーポンがもらえるなど、多くの人が日常的に楽しむことができる、位置情報を利用した観光アプリ配信を行い、観光のデジタル化を進めてみませんか。	デジタルスタンプラリーを活用した取り組みとしては、西尾市観光協会が行う「西尾かき氷」や、西三河の市町村で構成する「西三河広域観光推進協議会」が行う「家康公ゆかりの地 西三河ぐるっと歴史デジタルスタンプラリー」などがあります。どちらも位置情報を利用したものではなく、現地でQRコードを読み取り、スタンプを集めるもので、集めたスタンプに応じて景品の当たる抽選に応募できるものです。 犬塚議員からご提案いただいた、ポケモンGOのような位置情報ゲームアプリについて、独自に開発することは、その後の経費も含め莫大な費用が必要になること、また、多くの方にアプリをダウンロードしていただくことが簡単ではないことから、非常に難しいと考えます。 しかしながら、位置情報を利用した既存の観光アプリを使用している取り組みは可能であると考えます。 実際、昨年度には、西尾市と蒲郡市、愛知こどもの国が連携し、位置情報連動型ゲーム「駅メモ」を活用したデジタルスタンプラリーイベントを開催しております。 これは、名鉄にしがま線の利用促進や周辺観光を目的に、にしがま線の13の駅や歴史公園、愛知こどもの国を対象スポットにして、コンプリート者はプレゼントがゲットできるものでした。 こういった位置情報を利用したアプリは他にもあると思いますので、今後、イベント開催に向けて検討してまいります。	観光文化振興課	―	C	

<予算措置の分類>

○：予算措置あり、―：予算措置なし

<事業の実施状況の分類>

A：意見・質問等の趣旨に沿って実施したもの（一部実施を含む）、B：実現に向け努力しているもの、C：当面は実現できないが検討課題として受けたもの、D：実現が極めて困難なもの・提言として受けたもの・現状の説明をしたもの

整理番号	テーマ	質問N.○	質問内容	市の回答	担当課	予算措置	事業の実施状況	備考
6	市民が誇れるまちづくりについて	1	「西尾市都市計画マスタープラン」には、都市づくりの目標として9つ掲げていますが、目標によるまちづくりをどのように考えていますか。	「都市計画マスタープラン」は、土地の使い方や道路・公園、環境の整備など、分野別にまちづくりの方針を定め、長期的な視野により都市づくりを考える計画であり、西尾市が目指す都市づくりの長期的・総合的な指針になります。 計画に掲げている9つの都市づくりの基本目標は、定住の促進、土地利用の誘導や道路・交通ネットワークなど、西尾市が抱える現状の課題解決に必要な複数の都市づくりのキーワードを踏まえて、目指すべき都市の姿として設定したものです。また、基本目標のすべてにS D G s（持続可能な開発目標）の関連項目を位置付け、持続可能な都市をつくることも目標としています。 これらの基本目標は、それぞれが都市づくりの要素であり、複数の目標を達成することが、「都市計画マスタープラン」で目指す将来都市像「住みたいまち 訪れたいまち ワクワクするまち にしお」に繋がるものと考えています。 また、この将来都市像が、青山議員のおっしゃる「住みたくなる」西尾市に繋がるまちづくりになるように努めてまいります。	都市計画課	―	D	
		2	都市づくりの目標⑤に、「豊かな自然環境と調和した都市づくり」とありますが、現在、一色中学校の近くに産業廃棄物の処分場がつくられようとしています。目標と逆行するように感じるのですが、それについてはどのように考えていますか。	一色町の産業廃棄物処分場建設計画について関心を持っていただきありがとうございます。 一色中学校に隣接した一色町生田地区において、民間事業者が、事業所から出される産業廃棄物の埋立て処分場と焼却施設の建設を計画しています。埋立て処分場の大きさについては、容量はバンテリンドームナゴヤ6杯分に相当し、面積は東京ディズニーランドと同じくらいで、廃棄物を埋立て処分する期間は40年から50年とされ、日本最大規模です。 もちろん、産廃処分場自体は、私たちの生活や産業活動の維持・発展のためには必要な施設と言えます。 しかし、計画されている一色町生田地区の海の近くで、施設が稼働した場合を想定してみると、廃棄物を搬入する大型車両が多く通ることによって、一色中学校の生徒の交通安全への影響が心配される上に、施設内での作業によって、騒音・振動・悪臭や埃の問題により、学習環境が悪化することはもとより、周辺住民の身近な生活環境への影響も心配されます。さらに、産廃処分場からの排水が三河湾の水質に影響を及ぼすことも心配され、仮に水質に影響がなくても、産廃処分場ができたというその事実のみで、一色産うなぎや三河一色えびせんべい、三河湾の魚介類などの地場産業が風評被害を受けることも懸念されます。また、この地域は、震災の被害想定が極めて高い地域で、もしも将来、液状化や津波による被害が生じた場合、廃棄物や処理前の汚水が流れ出し、豊かな海「三河湾」全体に影響が及んでしまうことも考えられ、そうなることは、西尾市だけの問題ではなくなってきます。 このように、この場所での産廃処分場建設は、多くのデメリットが考えられることから、市ではこの場所には建設すべきでないと、一貫して反対しています。 ただし、施設の設置を許可するのは西尾市ではなく愛知県となるため、市としては地元住民及び地場産業関係者の方々と手を携えて、反対の意思を訴えていく以外に計画を止める方法がありません。 なお、地元住民の方々等で構成する市民団体による署名活動などが実を結び、令和4年3月に、この事業者から市に、産廃処分場の建設から別の事業に方針転換することを検討している、と連絡がありました。 一歩進んだ状況にはありますが、ただ、計画を完全には撤回しておらず、まだ、終わりは見えていません。現在、市では、地元住民の方々等と連携して、事業者に産廃処分場計画の白紙撤回を求めているところです。 なお、今日の答弁だけではわかりにくいところもあるかと思いますが、この問題については、ユーチューブでも配信していますので、一度ご覧いただいて、より深く知っていただければと思います。	環境保全課	―	D	

<予算措置の分類>

○：予算措置あり、―：予算措置なし

<事業の実施状況の分類>

A：意見・質問等の趣旨に沿って実施したもの（一部実施を含む）、B：実現に向け努力しているもの、C：当面は実現できないが検討課題として受けたもの、D：実現が極めて困難なものの提言として受けたもの・現状の説明をしたもの

整理 番号	テーマ	質問 No.	質問内容	市の回答	担当課	予算 措置	事業の 実施状況	備考
		3	都市づくりの目標⑦に、「受け継がれてきた歴史・文化を生かした都市づくり」とありますが、かつて歴史的価値のある旧井桁屋の取り壊しが行われるなど、失ってしまったものも多いように感じます。今後、歴史や文化をどのように生かしていくつもりですか。また、それを生かしたまちづくりとはどのようなものですか。	歴史や文化を生かしたまちづくりと言っても、歴史的な建物をカフェやショップに活用することから、保存された建物の外観を眺めたり、建物がなくても例えば江戸時代の城下町エリアが分かるように案内看板を設置したりすることまで、実に幅広い取り組みが考えられます。そして、地域に残る大切な資産である歴史や文化を活用するためには、まず歴史・文化の内容を把握するための調査を行い、その歴史・文化のもつ価値を理解した上で、後世に伝えられるよう「保存」することが必要です。 しかしながら、建物の安全性を確保するために莫大な費用がかかることや建物の活用のめどが立たないなどのやむを得ない理由により、青山議員のご指摘のとおり、旧井桁屋をはじめとする歴史的な建物や町並みが失われてしまったことについては、私たちも大変残念に思っています。 そうした中、西尾市では現在、文化財の保存活用事業として、１００年以上前に作られた岩瀬文庫の旧書庫の保存修理や広場の再生、西尾城の表玄関であった大手門跡、今は中善楽器の東側の空き地になっている所ですが、それらの復元整備などに取り組み、歴史公園を中心とした観光ルートを磨き上げたり、まち全体で来訪者をもてなしたりする、西尾市の「強み」となるような魅力的なまちづくりを進めていきたいと考えています。 また、建物や史跡などのハード面ばかりでなく、まちの「景観」につながる「てんでこ祭り」、「一色の大提灯」や「鳥羽の火祭り」などの伝統芸能を含む民俗文化財や、全国的にも著名な詩人の茨木のリ子氏や小説家の尾崎士郎氏など、地域にゆかりのある文化人の存在も、まちづくりのソフト面を支える大切な要素になります。市民の皆さんや来訪者の方が、まちの歴史や営みの積み重ねを感じられることが、広い意味での「歴史や文化を生かしたまちづくり」だと言えます。 このようなまちづくりの目的は、西尾市の歴史や文化をもっと知ってもらい、好きになってくれる市民を一人でも増やすことです。したがって、青山議員におかれましては、ふるさと西尾の魅力を今一度見つめ直していただくことにより、周りの人たちに「西尾市が持つすばらしさ」を自信を持ってＰＲしていただければと思います。	文化財課 観光文化振興課	○	B	
		4	都市計画マスタープランに基づき都市をデザインしていくことは、市だけでは取り組めません。そこに暮らす人々や、企業の協力が必要不可欠です。今後の西尾市をデザインしていくうえで、官民が一体となるような取り組みや、市民の意見を反映できるような機会を考えていますか。	総合政策部関係分について、お答えします。 令和元年度から、西尾市では、市が抱える地域課題に対して民間事業者等の自由な提案や相談を受け付ける「Ｃラボ西尾」という窓口を設置しています。この背景としては、自治体業務が、多様化・複雑化・専門化し、多くの課題を解決したいという行政ニーズと市民サービスの向上や業務の効率化に活用できる民間事業者等のアイデア・ノウハウ・技術力等を掛け合わせる仕組みが必要であると考え、スムーズに対応できるワンストップ窓口を設置したというものです。 その結果、官民が一体となって取り組む事業も増えており、例えば、今年４月、株式会社セブン・イレブン・ジャパンから市制７０周年記念を盛り上げるため、「西尾の抹茶」を使用したスイーツが販売されましたが、これは市と民間事業者が一体となって取り組んだ地元特産品を活用したシティプロモーションの一つの事例になります。 また、まちづくりに関して市民の意見を直接聴く機会としては、本日開催の学生議会や高校生との懇談会、市長が地域に出向き対話する市政懇談会などがあり、取り組み等の参考にさせていただいています。 産業部から、ご答弁申し上げます。 官民が一体となったまちづくりの取り組みとして、「中心市街地活性化事業」として、まちなかの賑わいをつくるための活動が現在進行中です。西尾駅西側の広場に設置された「ＢＯＸＰＡＲＫ」という緑のコンテナハウスでは、新しく西尾市内でお店を始めたいと思っている方に、チャレンジショップとしての利用や、高校生のジャズバンドの演奏のステージとしての利用も行っています。市だけでは取り組めないところを企業の皆様や学生の皆様と一体となって実施しています。 また、これだけでなく、「まちなかがこうなったらいいな」という意見について、ＬＩＮＥを使ったアンケートやオープンチャットを活用して、広く募集していくことを予定しています。更にそこで出たいろいろな意見について、意見交換会を開催し、市民の皆様と一緒に「こうなったらいいな」を少しずつ実現させていきたいと考えています。是非、一緒に市民が誇れる住みたくなるまちをつくっていきましょう。	秘書政策課 広報広聴課 商工振興課	○	A	

<予算措置の分類>

○：予算措置あり、―：予算措置なし

<事業の実施状況の分類>

A：意見・質問等の趣旨に沿って実施したもの（一部実施を含む）、B：実現に向け努力しているもの、C：当面は実現できないが検討課題として受けたもの、D：実現が極めて困難なもの・提言として受けたもの・現状の説明をしたもの

整理番号	テーマ	質問N.º	質問内容	市の回答	担当課	予算措置	事業の実施状況	備考
7	名鉄西尾・蒲郡線を 活用した地域活性化	1	インパウンドの観光客を呼び込む施策について、市はどのように考え、どのような取り組みをしていますか。	日本の観光産業は資源の豊さなどポテンシャルは高く、インパウンド需要の取り込みは国の成長戦略の柱になる可能性があると考えられており、西尾市においても、多くのインパウンドを呼び込むことが、観光行政において重要な課題であると考えています。 現在、行っている具体的な取り組みとしましては、ターゲットを抹茶が人気であるタイに絞り、タイの博覧会に出展し、現地プロモーションを行っています。 また、SNSを活用した誘客も効果的であると考え、人気インスタグラマーの登用や、外国人旅行者に人気の旅アプリなどを通したPRも行っているところです。 しかしながら、数ある日本の観光地の中から西尾市の観光資源だけで、インパウンドを呼び込むことは非常に難しいことです。 一方で、西尾市には鰻や抹茶、醸造などの食や文化において、外国人に人気のあるコンテンツも多く、それは外国人観光客に足を向けてもらう強みであると考えます。 今後は、西尾市観光協会などと連携し、外国人観光客の興味を引く商品の開発や、効果的な販売方法について改めて検討してまいります。	観光文化振興課	○	A	
		2	現在、実現に向けて動いている、にしがま線を活用した観光地域づくりの取り組みはありますか。また、にしがま線において、ゆっくりと食事やお酒が楽しめる観光列車を運行しませんか。	にしがま線を活用した観光地域づくりの取組につきましては、令和3年12月に西尾市・蒲郡市・名古屋鉄道の3者で締結した「名鉄西尾・蒲郡線に関する連携合意書」に基づき、「地域とともに更なる観光推進」に取り組んでおります。その一つとして、9月9日（土）から、西尾・蒲郡線を走る6000系ワンマン車両に、かつて西尾・蒲郡線で運行していた5500系車両の復刻塗装を施して運行します。 ライトピンクと茶色のツートンカラーで復刻した車両により、当時を知る人は昔を懐かしんでいただき、知らない人にとっては目新しさを感じられる、にしがま線の新たな魅力として誘客推進や交流人口の増加など、観光活性化のコンテンツとして活用してまいります。 また、食事やお酒が楽しめる観光列車の運行につきましては、走行環境や車両の整備に多額の費用を要するため、現時点ではそのような計画はございませんが、市民等が主催する市制70周年記念市民公募事業において、名鉄電車の車内空間を活用した1日限りのレストランを10月に企画しています。 このように、市と民間が協力した企画を実施することは、今後の取り組みの参考となり、にしがま線の活性化に繋がるものと考えています。	地域つながり課	○	A	
8	地域の特産物、資源を大切に	1	西尾市には安全で良質な農水産物が数多くあります。それらを育成・出荷・販売する際に、産地偽装などの不正行為が起きないための対策をしていますか。また対策をしているのであればどのような内容ですか。	農水産業者は、一般的に生産に関わる生産履歴の記録を求められており、生産物を出荷する場合は、その記録を農業協同組合（JA）や漁業協同組合へ提出することが求められています。 昔はその記録がなかったため、産地偽装という行為自体の把握ができませんでした。現在はその記録がしっかりしているため、不正行為がわかるようになりました。 また、西尾のアサリ漁については、回復基調にあり、アサリを食べる食害生物の除去に積極的に取り組むことや、アサリの幼い小さな貝を西尾市沿岸に放流するなど取り組んでおりまして、豊川河口付近の穴条潟で発生したアサリに限定する取組を堅く守りながら、安心安全にこだわり、西尾産アサリの漁獲量及び取引単価の向上に努めております。また、新たに市内の海にポールを立てて、アサリをかごに入れて吊るす養殖の取り組みを始めましたので、佐久島の島アサリとともに西尾産アサリのブランド力向上に取り組んでまいりたいと考えております。これから共に頑張ってまいりましょう。	農水振興課	―	D	
		2	農水産業従事者を支援する目的で市が、農水産業従事者の生の声を聞く機会が定期的にありますか。また、農水産業従事者が困ったときの相談窓口がありますか。	農業と水産業双方に言えることですが、農協や漁協の職員との意見交換の場を年に数回ずつ設けており、生産現場とのコミュニケーションを大切にしております。 特に農業については、イチゴやキュウリなど各生産者でつくるグループの会議に職員が参加することや生産者に身近な農協や漁協と意見交換を行うことで、生産者の方々の現場の声を聴くことに努めております。 困ったときの相談窓口としては、市では、農水振興課が相談窓口となっており、生産者が農業資材や農業用機械を導入する取組に対する補助金申請等の助言などを行っております。 専門的な技術などの栽培技術、養殖技術の助言は、県、農協や各漁協において行っておりますので、市の農水振興課はこれらの機関と連携して、農水産業従事者をサポートできるように取り組んでいます。	農水振興課	―	A	

<予算措置の分類>

○：予算措置あり、―：予算措置なし

<事業の実施状況の分類>

A：意見・質問等の趣旨に沿って実施したもの（一部実施を含む）、B：実現に向け努力しているもの、C：当面は実現できないが検討課題として受けたもの、D：実現が極めて困難なもの・提言として受けたもの・現状の説明をしたもの

整理番号	テーマ	質問N.○	質問内容	市の回答	担当課	予算措置	事業の実施状況	備考
9	三河の小京都 西尾について	1	みなとまつりなど、地場産業や特産品を知ってもらうためのイベントを開催していますが、観光振興及び産業振興の今後の課題は何だと考えますか。	みなとまつりなどイベント開催による観光・産業振興につきましては、西尾市に来訪いただき、西尾市の魅力を感じてもらうことに大きな意義があると考えます。 また、特産品を知ってもらう方策として、毎年、全国各地のイベントに出向いてPRを行うとともに、「記念日に西尾を贈ろう」と題して、茶摘み体験、塩焼き体験、うなぎの炭火焼体験、フラワーギフト制作体験など、特産品をテーマにしたイベントを行っています。 また、西尾市鋳物工業協同組合により、地場産業の鋳物の製法でアイス用のスプーンを製作する体験会も開催されています。 しかしながら、地域ブランドに認定されている抹茶、うなぎ、えびせんべいなどの特産品でさえも、日本全国での知名度はまだまだだと感じています。 今後の課題としましては、西尾の特産品を知ってもらうとともに、市外からより多くの誘客を図るためには、PR方法の検討や新たなイベントコンテンツの導入、そして如何にそのイベントを魅力的なものにしていくのかが重要になってくると考えます。 そして、手島議員はじめ、未来を担う若い世代の意見を伺いながら施策を展開することが重要だと思います。どうしたら西尾市の特産品が盛り上がり、地域が活性化していくのかを一緒に考えていただけたらと思います。	観光文化振興課	―	D	
		2	歴史公園周辺の整備が今後進む中で、城跡や城下町を活かしたまちづくりについて、市の展望を教えてください。	交流共創部から観光振興についてお答えします。 西尾市では「西尾城跡保存活用計画」により、歴史公園や城下町を含む西尾城跡の整備や活用について、今後の方針を定めています。 なかでも歴史公園につきましては、平成8年に本丸丑寅櫓と鎗石門を再建し、平成27年には天守台と石垣を、そして、令和2年には全国的にも珍しい屏風のように折れ曲がった「屏風折れの土塀」と公園内の最も北側に立つ「二之丸丑寅櫓」を建設するなど、順次整備を進め、多くの観光客の皆様を訪れていただいています。 また現在は、西尾城の正門である大手門があった一角、現在の場所で言う西尾市中町の中善楽器の東側になりますが、その整備を令和8年度末の完成を目指して行っているところで、歴史公園の本丸・二之丸周辺のみでなく、観光客の足を城下町エリアにも向けてもらうきっかけになることを期待しております 一方で、本市の観光を盛り上げていくためには、手島議員からご提案のあった食べ歩きや体験なども重要な要素の一つであると認識しています。 市としましても、観光資源そのものの魅力向上が、観光客をターゲットにした店舗を呼び寄せると考えますので、まずは観光資源の充実とPRを図ってまいります。 産業部から、ご答弁申し上げます。 現在、西尾市では、市民の皆様や事業者、団体などが一体となって西尾駅周辺を中心としたまちなかのにぎわいを創出するため、「中心市街地活性化ビジョン」の策定を進めております。 城跡や城下町のたたずまいが残る町並みは、中心市街地エリアの歴史、文化、観光の貴重な資源です。今後、ビジョン策定にあたり、市民の皆様から市公式LINEや意見交換会等を通じて「こんなまちなかになってほしい」などのご意見やアイデアをいただく予定です。いただいたご意見などを基に、城跡や城下町の有効活用を含めたまちなかの魅力や活力の向上につなげたいと考えております。 また、先ほど、西尾市の観光を盛り上げるためボランティアによる様々な活動を考えていらっしゃるとう聞きし、とても頼もしく感じております。ハンドメイド作品のマルシェでの販売などについては、関係者に確認したところ、「是非参加してほしい。応援したい」とのことでした。今後、いろいろな分野で、中学生の皆さんと一緒に、三河の小京都である西尾市を盛り上げていきたいと考えております。	観光文化振興課 文化財課 商工振興課	○	A	

<予算措置の分類>

○：予算措置あり、―：予算措置なし

<事業の実施状況の分類>

A：意見・質問等の趣旨に沿って実施したもの（一部実施を含む）、B：実現に向け努力しているもの、C：当面は実現できないが検討課題として受けたもの、D：実現が極めて困難なもの・提言として受けたもの・現状の説明をしたもの

整理 番号	テーマ	質問 N o	質問内容	市の回答	担当課	予算 措置	事業の 実施状況	備考
10	人でにぎわうきれいな海にするために	1	西尾市の海水浴場は水質及びごみの両方で汚いという問題に対して、私たちはボランティア活動に参加していくべきだと考えていますが、市として他にどのような解決方法を考えていますか。	まず、本市の海水浴場の水質が「汚い」とランキングされてしまう要因ですが、三河湾は水深が平均約9メートルと全体的に浅い海で、知多半島と渥美半島に囲まれた閉鎖性水域のため、川から流れ込む生活排水や工業排水などの汚濁物質が堆積しやすいという特性によるものと考えられています。このように地理的な原因によるものだと対処は難しいところですが、本市では、まずは、こうした排水を公共下水道や合併処理浄化槽などを通じてきれいな水にしてから川に流れ込むように取り組んでいます。ただ、あまり浄化しすぎると、今度は、あさりなどの生物が育ちにくくなる可能性もありますので、豊かな海にするために何が必要か、市民の皆さんとともに考えてまいりたいと思います。 次に、海のごみについては、主に、ポイ捨てされたごみや、外に放置されていた日用品などが風や雨で川に入り、流れに乗って海へ出て、海岸に漂着するものと一般的に考えられています。瀬川議員からは、クリーンアップのためのボランティア活動に参加していくべきと、本当に頼もしいご意見をいただきましたが、その前にまずは、こうしたごみを減らす工夫、具体的には、余分なものは買わない、海水浴等で出たごみは必ず持ち帰る等、一人ひとりが気をつけるだけで、海ごみは確実に減らすことができると 생각합니다。残念ながら、ごみの減量化に特効薬はありません。そのため環境部では、現在、「雑がみ」分別をきっかけに、市民の皆様が分別にご協力いただけるよう積極的に周知活動を行っているところです。	環境保全課 ごみ減量課	―	D	
		2	沖縄県では、県民が自然に恩返ししたいという思いでボランティアの方々が定期的に清掃活動を行っているそうです。西尾市は今後そういった活動を観光PRと組み合わせて行う予定はありますか。	西尾市においても、ボランティアの方による清掃活動は、様々な場所で積極的に行っていただいております、先月も宮崎海水浴場では、「ボランティア1,000人クリーン作戦」が行われ、多くの方に参加いただきました。 その他、佐久島では、「海岸漂着ゴミ回収活動ボランティア」や、海を豊かにしようと島の中学生が2002年から始めた「アマモを増やして藻場を再生する活動」に今年も300人のボランティアが参加して、アマモの移植活動をしていただいたところでした。 一方で、昨年、カタールで開催されたワールドカップでは、日本人の観客が観戦後、自発的に観客席を掃除していたというニュースが話題になりました。 瀬川議員ご提案のボランティアによる清掃活動と観光PRの組み合わせも面白い取り組みだと思いますが、ボランティアの根底にあるものは、沖縄県の清掃活動がそうであるように「その場所を大切にしたい」という思いや「このイベントを気持ちのいいものにしたい」といった、それ自体を大切に思う気持ちであると考えます。 今後は、イベント終了後に会場の清掃活動にご協力いただく時間を設けるなど、永い年月愛されるイベントに参加者と一緒に築いていけるような方策について検討してまいります。	観光文化振興課 佐久島振興課	○	A	